

# うみやまかわ新聞

## 事業実施完了報告書

事業名：海と地域のつながりを見つける「うみやまかわ新聞」の制作

平成27年3月31日

特定非営利活動法人離島経済新聞社

## 目次

1. 事業名	3
2. プロジェクト名	3
3. 事業の目的と目標	3
(1) 本事業の目的について	3
(2) 本事業の目標について	3
4. 事業内容	4-8
(1) 事業内容について	4
(2) 実施推進体制・協力体制について	4
(3) 実施地域・地域コーディネーター・参加生徒について	5
(4) 全体スケジュール	5-6
(5) 活用ツールについて	7-8
5. 実施内容および業務報告	9-30
(1) 現地プログラム	9-13
(2) テレビ電話会議プログラム	14-16
(3) 新聞制作・印刷・配布	17-19
(4) WEBサイト制作	19
(5) 展示・発表会	20-26
(6) 広報・PRについて	27-30
6. アンケート集計結果	30-43
(1) プログラム実施後アンケート結果	30-41
(2) うみやまかわ新聞制作後の編集後記用ヒアリング結果	42
(3) 地域コーディネーターへのヒアリング結果	43
7. 事業総括	44

### <別紙>

活用ツール：うみやまかわノート（全44ページ）

活用ツール：プログラム実施後アンケート

うみやまかわ新聞全国版配布先リスト：47都道府県各市区町村の教育委員会

展示会用パネル・POPのPDFデータ一式

広報・PR掲載紙：季刊ritokei（リトケイ）10～12号

広報・PR用プレスリリース

## 1. 事業名

海と地域のつながりを見つける「うみやまかわ新聞」の制作

## 2. プロジェクト名

「うみやまかわ新聞」プロジェクト

## 3. 事業の目的と目標

### (1) 本事業の目的について

「海洋教育の推進」を重点テーマに、以下の目的のもと、本事業を企画・実施した。日本は6,852島からなる島国であり、世界6位のEEZ（排他的経済水域）を誇る海洋国家である。本土5島と418島の有人離島には「海彦山彦」と呼ばれる幸があり、海の水が水蒸気となり雨として山へ降り注ぎ、川を下ってまた海に流れる「水のつながり」がある。また、かつては海流によって船が行き交ったことで、遠く離れた地域同士の「文化的つながり」もみられる。遠い昔から今日まで、島国・日本にとって、周囲を取り巻く広大な「海」は地域間を隔てる壁ではなく、山や川といった貴重な環境資源を育み、独自の産業や文化、そして人々の生活の形成・発展に密接に結びつき、この国を形作ってきた最も重要な要素の一つであった。しかしそれは、「海」を起点に、山・川へとつながり、再び「海」へ還る自然の循環の中で、「海」「山」「川」とともに日々の暮らしを営む人々がいたからこそ成り立ってきたことである。2014年現在、日本の人口は減少の一途を辿っており、2060年には8000万人台まで減少するというデータもある。この流れにのった都市一極集中の未来像では、日本各地の小規模地域は無人化してしまい、このままでは結果として「海」「山」「川」の荒廃を招き、「文化」「歴史」「経済」の衰退、個性豊かな「地域」「ふるさと」の消滅につながってしまう。そこで、これまで離島経済新聞社が培ってきた「他者・他地域との連携促進」「ICTの利活用促進」「日本を広く捉える観点の醸成」「自らが暮らす地域への誇りの醸成」といった施策実績とそのノウハウを用いて、山・川も含めた自然環境や文化、歴史、経済など、多角的かつ包括的な視点から各地域における「海」の重要性を学び、地域の人材育成につながる海洋教育の機会創出とその実現を目的に『海と地域のつながりを見つける「うみやまかわ新聞」の制作』事業を実施した。

### (2) 本業務の目標について

- ・メディアの制作過程で「地域を取材する（掘り下げて研究する）」作業を重ねることで、自らが暮らす地域における「海」との関わり、その重要性を見つめ直し、新しく学ぶこと。
- ・文化、歴史、環境、食など、さまざまな事柄と密接に結びつく海洋教育の必要性を広く訴求する。
- ・チームでの活動により「他者との連携」「ICTの利活用」を身につける。
- ・他地域との連携により「他地域と連携」「日本を広く捉える観点」を養う。
- ・「うみやまかわ新聞（仮）」の反響により、事業にかかわったことへの誇りを醸成する。
- ・成果物を国内の教育機関へ送り届けることによって「海」「山」「川」でつながる「日本のつながり」を啓蒙する。

## 4. 事業内容

### (1) 事業内容について

日本全国から5エリアを選出し、「小学生（各地域2～3名）」「地域の大人（NPO等の団体に所属するもの）」「編集者（地域に縁のある編集者など）」で5チームをつくり、OJT研修（6日間程度）やICT（テレビ電話等）を活用し、ウェブサイトおよび紙の「うみやまかわ新聞」を制作・発行。うみ・やま・かわのつながりを通して自分の暮らす地域と他地域のつながりを知り、海洋国家の価値を学ぶ。

### (2) 実施推進体制・協力体制について

#### 【体制】

事務局：特定非営利活動法人離島経済新聞社

プロジェクトマネージャー：大久保昌宏（特定非営利活動法人離島経済新聞社）

講師：鯨本あつこ（離島経済新聞編集長）

勝眞一郎（サイバー大学IT総合学部教授）

アドバイザー：松川來仁（株式会社フィオレ・コネクション代表取締役）

望月洋佑（野村アグリプランニング&アドバイザリー株式会社）

ディレクター：多和田真也（株式会社タワー）

宮本なみこ（特定非営利活動法人離島経済新聞社）

石原みどり（特定非営利活動法人離島経済新聞社）

編集コーディネーター：甲斐かおり／小野民

インターンスタッフ：松本一希

アートディレクション：岡崎智弘（SWIMMING INC.）

紙面デザイン：西本瑤（SWIMMING INC.）

WEBデザイン・制作：鈴木健太郎

イベント設営・運営：株式会社ハレットケ

制作：株式会社リトルコミュニティラボ

印刷：株式会社朝日プリンテック

#### 【助成】

公益財団法人日本財団平成26年度助成

#### 【協力】

日本航空株式会社

北海道利尻町教育委員会

檜原学園檜原村立檜原小学校

財団法人日田市公民館運営事業団中津江公民館

NPO法人与那国いとなみネットワーク

(3) 実施地域・地域コーディネーター・参加生徒について

【実施地域】

北海道利尻島／東京都檜原村／愛媛県上島町／大分県中津江村／沖縄県与那国島

【地域コーディネーター】

- ① 北海道利尻島：高橋哲也（津田商店専務取締役）
- ② 東京都檜原村：鈴木健太郎（東京ひのほら村ゲストハウス へんぼり堂）
- ③ 愛媛県上島町：藤巻光加（上島町地域おこし協力隊・まるふ農園）
- ④ 大分県中津江村：河井昌猛（日田市地域おこし協力隊）
- ⑤ 沖縄県与那国島：松田啓太（NPO法人与那国いとなみネットワーク）

【参加生徒】

- ① 北海道利尻島：20名（小学校6年生6名・小学校5年生7名・小学校4年生1名・小学校3年生4名・小学校2年生2名）
- ② 東京都檜原村：7名（小学校6年生）
- ③ 愛媛県上島町：2名（中学校2年生1名・小学校6年生1名）
- ④ 大分県中津江村：2名（中学校1年生1名・小学校6年生1名）
- ⑤ 沖縄県与那国島：2名（小学校6年生）

(4) 全体スケジュール

① 事業基盤整備（2014年6月1日～6月30日）

東京にて事務局設立／プロジェクトマネジメント開始／関係者調整／講師、編集コーディネーター、地域コーディネーター、アドバイザーをアサイン／委託先正式調整／機材手配

② 対象5地域調整（2014年7月1日～8月31日）

対象5地域（北海道利尻島／東京都檜原村／愛媛県上島町／大分県中津江村／沖縄県与那国島）にて事前打ち合わせ／各地域にて機材導入と事業説明を実施

③ 実施プログラム基盤整備（2014年7月1日～8月31日）

教育ツール制作／プログラムのシミュレーション

④ 媒体基盤制作（2014年9月1日～12月31日）

クリエイティブディレクション／ロゴデザイン／事業のクリエイティブ方針確立

⑤ 対象5地域にてOJT研修開催および現地取材（2014年9月1日～11月30日）

プロジェクトマネージャーおよびディレクター、編集コーディネーター、講師が現地を訪問し、OJT研修と現地取材を実施

⑥ テレビ電話によるOJT研修・編集会議・編集作業（2014年9月1日～12月27日）

プロジェクトマネージャーおよびディレクター、編集コーディネーター、講師によるICTを活用したOJT研修と編集会議、編集作業を実施

⑦ 広報PR (2014年9月1日～2015年3月31日)

紙媒体・ウェブ媒体にて事業紹介を掲載。事業の意義や目的について広報PRを実施

⑧ うみやまかわ新聞紙面・WEBデザイン (2014年12月27日～2015年1月31日)

紙版・WEB版のうみやまかわ新聞のデザイン制作を実施

⑨ 展示・発表会準備 (2014年12月1日～2015年1月31日)

展示用ツール制作／会場手配／各地域の生徒受け入れ態勢整備

⑩ WEBサイト「うみやまかわ新聞」公開・更新管理開始 (2015年2月1日)

WEBサイトを公開し、事業の進捗レポート等を開始

⑪ 展示・発表会開催 (2015年1月31日～3月3日)

都内3カ所で下記日程にて、展示会を開催

【展示会】

地球環境パートナーシッププラザ (GEOC) : 2015年1月31日～2月20日

渋谷ヒカリエ8F aiiima (アイーマ) : 2015年2月3日～2月9日

公益財団法人日本財団ビル1F : 2015年2月27日～3月3日

下記日程にて発表会練習を含めた前日懇親会を開催

【前日懇親会】

TOWN DESIGN CAFE : 2015年1月31日

下記日程にて発表会を開催

【発表会】

IID 世田谷ものづくり学校1F IID Gallery : 2015年2月1日

⑫ 流通 (2015年2月3日～3月31日)

参加地域への配布／関係各所への配布／全国47都道府県各市区町村の教育委員会への配布

⑬ 次年度マニュアル／報告書作成 (2015年3月)

次年度に向けたマニュアルおよび報告書を作成

(5) 活用ツールについて

① 教育ツール「うみやまかわノート」(※別紙参照)

プログラム実施用に制作。このノートをもとにOJT研修を実施



② テレビ電話会議システム

専用アカウントを使用し、WEBカメラ、マイクスピーカを設置。ICTを活用した遠隔授業を実施



### ③ 原稿・イラスト制作ツール

専用の原稿用紙とスケッチブック、色鉛筆等を使用し、取材原稿、イラスト等の制作を実施



### ④ フィルム付きカメラ

フィルム付きカメラを支給し、取材時に撮影



### ⑤ アンケート（※別紙参照）

プログラム実施後に毎回アンケートを実施。海洋教育への理解度、プログラム内容についてヒアリングを実施。プログラムの効果を検証するとともにブラッシュアップを図る



## 5. 実施内容および業務報告

(1) 現地プログラム（OJT研修・編集会議・編集作業）：2014年9月1日～11月30日

対象5地域（北海道利尻島／東京都檜原村／愛媛県上島町／大分県中津江村／沖縄県与那国島）にてOJT研修開催および現地取材を実施。島国日本の地理的特性や各地域のうみ・やま・かわについて学ぶとともに、新聞制作に必須の編集スキルを身につける。併せて、各地域にてうみ・やま・かわにかかわる人や歴史、文化などを取材。

### ① 第1回プログラム

学習1：「海に囲まれた日本」と「あなたの地域」を学ぼう

学習2：「メディア」や「編集」を学び新聞をつくろう

学習3：遠く離れた仲間とコミュニケーションをとろう

#### 【北海道利尻島】



#### 【東京都檜原村】



#### 【愛媛県上島町】



## 【大分県中津江村】



## 【沖縄県与那国島】



各地域、ICTを活用したテレビ電話会議システムを常時接続し、事務局・講師とコミュニケーションをとりながら、うみやまかわノートを元に学習1～学習3までのプログラムを実施。学習1では、自分が暮らす地域の「うみ・やま・かわ」について、KJ法を使ったグループワークを行い、テレビ電話越しに発表を行った。学習2では、地方紙や業界紙など、一般に発行されている複数の新聞を見比べ、その違いを学んだり、メディア・編集の基礎知識習得のプログラムを実施。学習3では、テレビ電話を使ったコミュニケーションの取り方や、会議の仕方などを講師とともに学んだ。

### ② 第2回プログラム

学習4：新聞に掲載する内容を考えよう

学習5：うみ・やま・かわに詳しい人に取材しよう

学習6：うみ・やま・かわの写真を撮ろう

## 【北海道利尻島】



【東京都檜原村】



【愛媛県上島町】



【大分県中津江村】



【沖縄県与那国島】



各地域、ICTを活用したテレビ電話会議システムを常時接続し、事務局・講師とコミュニケーションを取りながら、うみやまかわノートを元に学習4～学習6までのプログラムを実施。学習4では、実際に新聞に掲載する地域の「うみ・やま・かわ」について、グループワークを行い決定。取材先等の選定と紙面の割り付けなどを実施。学習5では、学習4で選定した人や場所を取材した。学習6では、カメラの撮影の仕方などを学び、実際の取材時に学んだ撮影方法にて写真を撮影。新聞の掲載要素を具体的に集める方法を学んだ。

③ 第3回プログラム

学習7：「うみやまかわ新聞」の原稿や素材をそろえよう

学習8：素材を校正（こうせい）して原稿を完成させよう

【北海道利尻島】



【東京都檜原村】



【愛媛県弓削島】



【大分県中津江村】



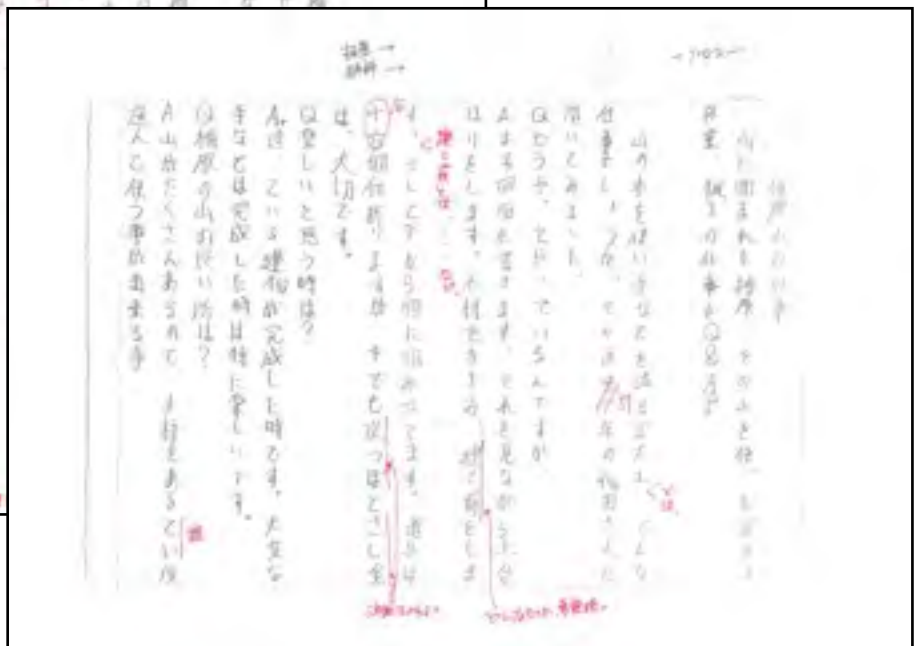
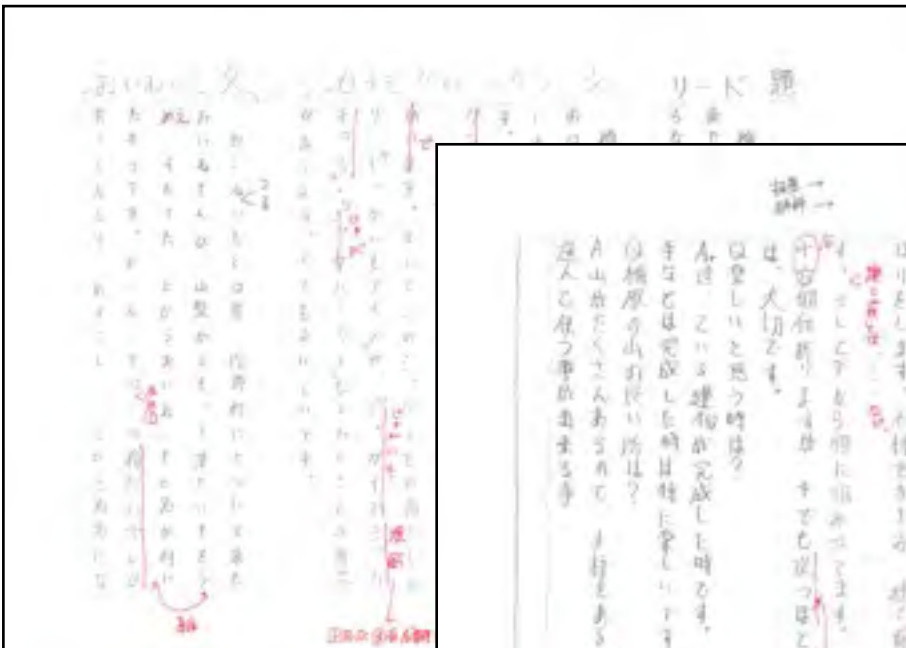
【沖縄県与那国島】



各地域、ICTを活用したテレビ電話会議システムを常時接続し、事務局・講師とコミュニケーションを取りながら、うみやまかわノートを元に学習7～学習8までのプログラムを実施。学習7では、学習4～6で実施した取材をもとに原稿を制作。併せて、紙面に掲載するイラストなども書いた。学習8では、生徒が執筆した原稿に対して、講師・編集スタッフが赤字校正を入れ、実際の新聞づくりと同様の作業を身を以て体感するとともに、これまでの学習・取材を通じて自分が感じたことを、改めて考え、推敲した。

【赤字校正原稿】

以下のように校正を入れた



(2) テレビ電話会議プログラム（OJT研修・編集会議・編集作業）：

2014年9月1日～12月27日

対象5地域（北海道利尻島／東京都檜原村／愛媛県上島町／大分県中津江村／沖縄県与那国島）とICTを活用したテレビ電話会議システムを接続し、OJT研修・編集会議・編集作業を開催・実施。現地プログラム実施時に毎回課題を出し、その課題をテレビ電話会議プログラムにて発表。次回の現地OJT研修や取材に向けた編集会議や編集作業を実施。

① 第1回テレビ電話会議プログラム

テレビ会議1：テレビ会議で取材したい内容を発表しよう

【テレビ会議1のうみやまかわノート】

【学習1～3終了時に出した課題】

【第1回テレビ会議の様子】 ※事務局PCモニターから撮影



各地域、ICTを活用したテレビ電話会議システムを接続し、遠隔にてOJT研修・編集会議・編集作業を実施。現場には、生徒と地域コーディネーターのみがいる状態で、東京の事務局からテレビ電話を通じて講師・スタッフがプログラムを実施。第1回目では、学習1～3実施後に出した課題として、うみやまかわ新聞で取材したい内容を各自でまとめ、発表。第1回現地プログラムで学習した内容を元に、調べ学習・発表のためのコミュニケーションなどを実践。



③ 第3回テレビ電話会議プログラム

テレビ会議3：「うみやまかわ新聞」のデザインをお願いしよう

テレビ会議4：「うみやまかわ新聞」づくりの感想を仲間に伝えよう

【テレビ会議3のうみやまかわノート】



【原稿セット一式】



【テレビ会議3のうみやまかわノート】



【第3回テレビ会議の様子】

※事務局PCモニターから撮影



各地域、ICTを活用したテレビ電話会議システムを接続し、遠隔にてOJT研修・編集会議・編集作業を実施。現場には、生徒と地域コーディネーターのみがいる状態で、東京の事務局からテレビ電話を通じて講師・スタッフがプログラムを実施。第3回目では、学習7・8にて制作した原稿・イラスト等を整え、一式をデザイナーへ渡す準備を行った。併せて、新聞づくりを通じて学んだことや感じたことなど、テレビ電話を通じて発表。ここまでの学習内容の振り返りを実施した。



(3) 新聞制作・印刷・配布：2014年12月27日～2015年3月31日

2014年9月1日～12月27日に実施した前項(1)(2)のプログラムで制作した原稿・イラスト、撮影した画像を、アートディレクター・デザイナーが新聞紙面にデザイン・レイアウト。対象5地域(北海道利尻島/東京都檜原村/愛媛県上島町/大分県中津江村/沖縄県与那国島)分の素材を1冊にまとめた「全国版」と、5地域それぞれの内容しか掲載していない「地域版」の2パターンを制作。タブロイドサイズにて印刷を行った。刷り上がった新聞は、対象5地域ならびに関係各所へ配布。

① 新聞制作

【うみやまかわ新聞 全国版(全24ページ)】

表1



表4



表2



表3



【うみやまかわ新聞 地域版（各地域4ページ）】

北海道利尻島版（表1）



東京都檜原村版（表1）



愛媛県上島町版（表1）



大分県中津江村版（表1）



沖縄県与那国島版（表1）



全国版として全地域のイラストが掲載された表紙、新聞完成後も振り返りの学び・気づきを得られる問いを掲載した表4、事業コンセプトと参加地域を明確に紹介する表2、事業の意義を理解いただいた協力企業様（日本航空株式会社）への取材ページとなる表3と、地域版にはない要素を設け、一般の読者ならびに、教育機関を始めとした関係各所の方々が目にした際に、事業の意義、目的等がはっきりと分かるように制作。各地域の制作ページ（1地域4ページずつ）と合わせて、全24ページの構成とした。

地域版は表1・表4合わせて、全4ページの構成。該当地域の制作ページのみ掲載で、各地域にて関係各所へと配布する際に活用。

② 印刷

全国版・地域版は下記部数を印刷。いずれもタブロイド版

【印刷部数】

◆全国版：5,000部

◆地域版 北海道利尻島：1,500部／東京都檜原村：200部／愛媛県上島町：4,500部  
大分県中津江村：1,500部／沖縄県与那国島：200部

### ③ 配布

全国版・地域版ともに、事業への認知度向上、趣旨・意義への理解度・共感度向上を目的に、以下の各所へ配布を実施

#### 【全国版】

展示会・発表会での配布と、特定非営利活動法人離島経済新聞社会員への配布、ならびに全国47都道府県各市区町村の教育委員会（※別紙参照）へ配布

#### 【地域版】

地域版はすべて対象5地域に送付。地域版のおもな配布ルートは以下。

- ・北海道利尻島：利尻町・利尻富士町役場／図書館／小学校／観光協会各所
- ・東京都檜原村：檜原村役場／小学校／観光協会各所
- ・愛媛県上島町：上島町役場／町内全戸各1部配布／小学校／中学校／図書館／観光協会各所
- ・大分県中津江村：中津江公民館／小学校／中学校／近隣施設各所
- ・沖縄県与那国島：与那国空港／与那国町役場／小学校／近隣施設各所

### (4) WEBサイト制作：2014年12月27日～2015年1月31日

うみやまかわ新聞の制作と平行して、うみやまかわ新聞WEBサイトのデザイン・制作も進行。新聞紙面のデザインを踏襲しながら、見やすく、分かりやすい構成とデザインで、より多くの人に事業の趣旨・意義を理解してもらい、認知されることを目的に制作。同時に、2014年度終了後も継続的に更新・情報発信をしていけるように管理運営を開始。

#### 【うみやまかわ新聞WEBサイト】

トップページ



(5) 展示・発表会：2015年1月31日～3月3日  
 完成した「うみやまかわ新聞」の展示・発表会を開催。

【展示会】

下記都内3カ所にて展示会を開催

地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）：2015年1月31日～2月20日

渋谷ヒカリエ8F aiiima（アイーマ）：2015年2月3日～2月9日

公益財団法人日本財団ビル1F：2015年2月27日～3月3日

① 地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）：2015年1月31日～2月20日

展示風景



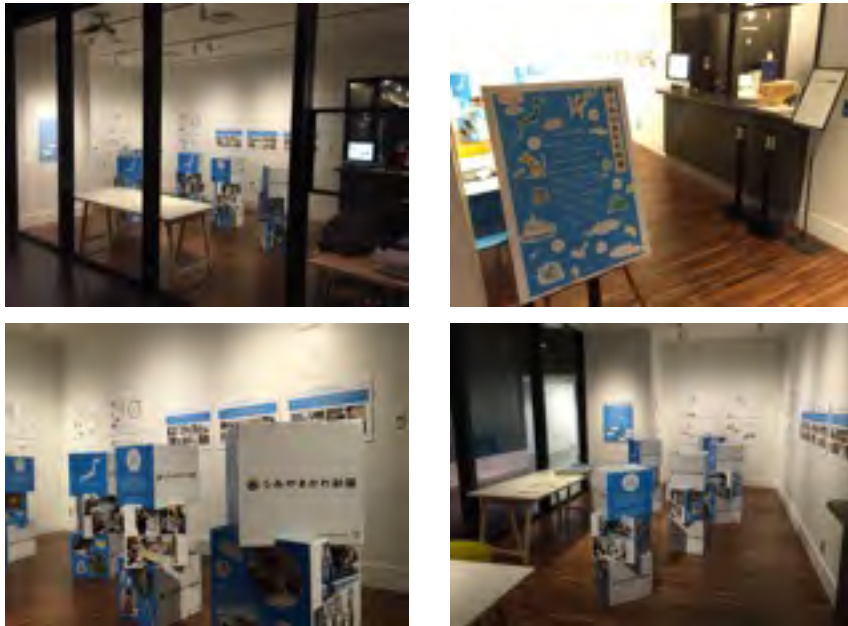
東京都青山の国際連合大学内にある地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）の1Fスペースにて開催。事業の趣旨・参加地域・取り組み風景・新聞紙面を800×800mmサイズで12枚のパネルを作成し、展示。同時にうみやまかわ新聞の全国版を設置し、来場者に配布した。

展示パネル（※全12枚分は別紙参照）



② 渋谷ヒカリエ8F aiiima (アイーマ) : 2015年2月3日~2月9日

展示風景



東京都渋谷ヒカリエ8Fの国aiiima (アイーマ) にて開催。事業の趣旨・参加地域・取り組み風景・新聞紙面をA1・B1サイズのパネルで展開。また、各地の紹介と取り組みの様子をサイコロ型POPにて展示・紹介。同時にうみやまかわ新聞の全国版を設置し、来場者に配布した。

展示パネル (※全体は別紙参照)



サイコロ型POP (※全体は別紙参照)



③ 公益財団法人日本財団ビル1F：2015年2月27日～3月3日

展示風景



東京都港区にある公益財団法人日本財団ビル1Fのスペースにて開催。事業の趣旨・参加地域・取り組み風景・新聞紙面をA1・B1サイズのパネルで展開。また、各地の紹介と取り組みの様子をサイコロ型POPにて展示・紹介。同時にうみやまかわ新聞の全国版を設置し、来場者に配布した。

展示パネル（※aiiima展示の流用 全体は別紙参照）



サイコロ型POP（※aiiima展示の流用 全体は別紙参照）



## 【前日懇親会】

下記日程にて発表会練習を含めた前日懇親会を開催

TOWN DESIGN CAFE：2015年1月31日

### 前日懇親会風景



東京都表参道にあるTOWN DESIGN CAFEにて開催。参加生徒と地域コーディネーターが各地域より集合し、翌日の発表会に向けて、夕食を兼ねた懇親会を実施。事前に課題としておいた発表会シートを作成・持参してもらい、予行練習として、それぞれ翌日の発表会の発表内容をプレゼン。他地域の仲間、関係者を前に、改めて事業を通じて学んだことを振り返るとともに、大勢の人の前でしっかりと話ができる心構えなどをレクチャー。同時に地域間交流を促進し、事業を通じて取り組んで来たコミュニケーション力や、地域の情報発信力を実践する場を創出した。

## 発表会シート

The image shows two versions of a presentation sheet for 'うみやまかわ新聞' (Umiyama-kawa News). The left version is the original form, featuring a title 'うみやまかわ新聞 発表シート' and instructions: 'まはし1日だけ発表会に向けて、みんなの目で発信するためのシートをつくりましょう！' (Towards the 1-day presentation in Mahashi, let's create a sheet for everyone to disseminate with their eyes!). Below the title are three large empty boxes for content. The right version is a modified form with three distinct sections: '新聞のせどころ' (Where to place the news), 'あなたの暮らしのうみやまかわ' (Umiyama-kawa of your life), and '感想' (Comments). Each section has a small instruction above it and a large empty box for input.

事前に課題として配布していた発表会シート。

うみやまかわ新聞をつくった感想や、どんなところを読んでもらいたいのかなど、発表会当日に話す内容を事前に考えて、東京入りする前に改めてプログラム内容などを振り返る機会を設けた。

### 【発表会】

下記日程にて発表会を開催

IID 世田谷ものづくり学校1F IID Gallery：2015年2月1日

参加者数：54名（生徒・地域コーディネーター含む）

取材メディア：2社（大分合同新聞社・愛媛新聞社）

当日タイムテーブル：

09：00 開場

09：30 開会挨拶

09：45 新聞づくりの流れを紹介・「うみやまかわ新聞」お披露目

10：00 子どもたちによる「うみやまかわ新聞 地域版」の発表

11：00 「うみやまかわ新聞」を使った特別ワークショップ

12：00 発表会終了

12：00～13：30 ランチを兼ねた懇親会を開催



## 発表会風景



東京都世田谷区にあるIID 世田谷ものづくり学校のギャラリースペースにて開催。会場内では展示会で使用するパネルやサイコロPOPで事業の趣旨・これまでの取り組み風景などを紹介。生徒たちは、前日にリハーサルした内容をもとに、50名を越す参加者・関係者の前で、自分たちの地域のうみやまかわ新聞を発表。事業実施期間中、講師を務めた離島経済新聞編集長・鯨本とテレビ電話を接続。各地域の発表後に総評をしながら、コミュニケーションを図った。

## 特別ワークショップ風景



各地域の発表終了後には、「うみやまかわ新聞 全国版」の表4に掲載している3つの問いの答えを考えるワークショップを実施。新聞づくりをゴールとするのではなく、事業の趣旨をしっかりと伝えながら、新聞づくり終了後の振り返り学習として、地域の「うみ」「やま」「かわ」を考え、他地域との違いやつながりを学んだ。

## ランチ懇親会風景



発表会・ワークショップ終了後は、生徒・地域コーディネーターを中心にランチ懇親会を開催。事業を通じて学習したことなどを振り返りながら、参加地域同士で交流。

(6) 広報・PRについて：2014年9月1日～2015年3月31日

本事業を通じて、以下の広報・PRを実施した。

① 実施事業の趣旨・意義の訴求と認知度拡大のための広報・PR

季刊ritokey (リトケイ) 10号 16-17面 (2014年8月29日発行 ※別紙参照)

発行部数：5000部



季刊ritokey (リトケイ) 11号 16-17面 (2014年11月28日発行 ※別紙参照)

発行部数：5000部



季刊ritokey (リトケイ) 12号 16-17面 (2015年2月28日発行 ※別紙参照)

発行部数：5000部



② 発表会・展示会告知のための広報・PR

プレスリリース配信（離島経済新聞社関係メディアに送付 ※別紙参照）

※発表会参加生徒の個人情報等保護のため、配信メディア・配布先は離島経済新聞社にて選定



③ うみやまかわ新聞完成・展示会告知のための広報・PR

プレスリリース配信（株式会社PR TIMESより報道関係各社に送付 ※別紙参照）

配信URL：<http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000010709.html>



④ 事業進捗・WEBサイト完成・発表会レポート等告知のための広報・PR

WEBメディア「離島経済新聞」での掲載



2015年1月21日掲載

公式Facebook+記事内「いいね」数：232

まもなく完成する「うみやまかわ新聞」と展示会、WEBサイトの告知



2015年2月3日掲載

公式Facebook+記事内「いいね」数：317

展示会の案内・告知



2015年2月5日・10日掲載

公式Facebook+記事内「いいね」数：292

発表会の開催レポート（前・後編）



⑤ その他、広報・PRによる掲載メディア

愛媛新聞（2015年2月2日朝刊 地方面）



6. アンケート集計結果

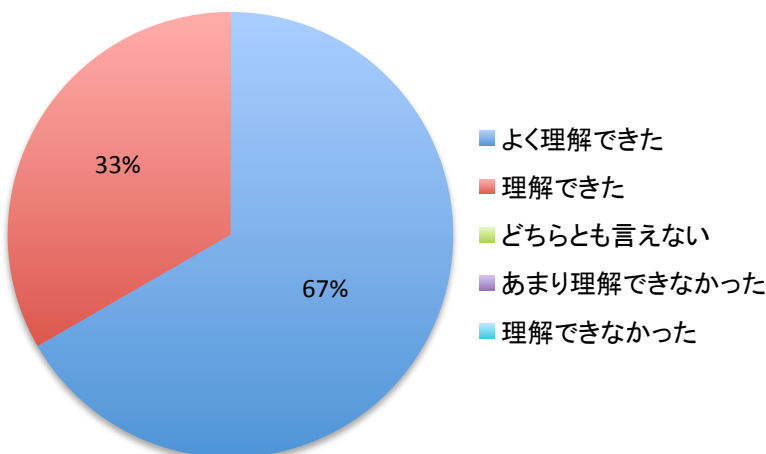
(1) プログラム実施後アンケート結果

対象5地域（北海道利尻島／東京都檜原村／愛媛県上島町／大分県中津江村／沖縄県与那国島）にてプログラムを行う際に、毎回プログラム内容等について、アンケートを実施。生徒たちの海洋教育への理解度、プログラム内容の適切さなどを可視化。

① 第1回プログラム（学習1～3）

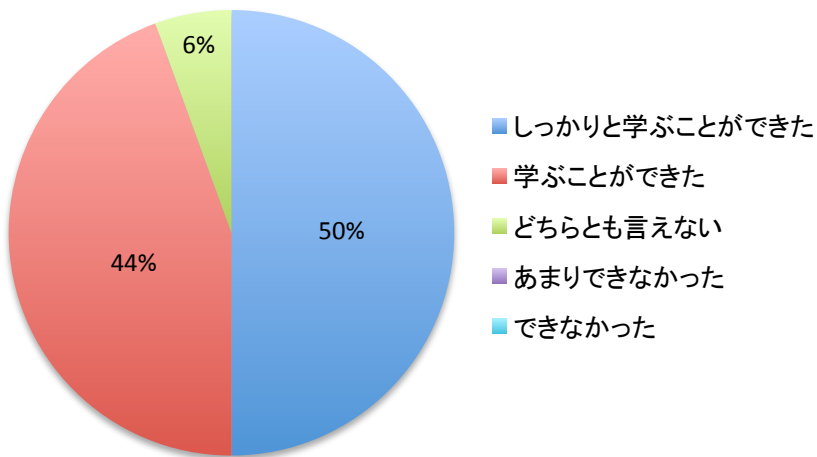
学習1アンケート

Q1：学習1について、内容は理解できましたか？



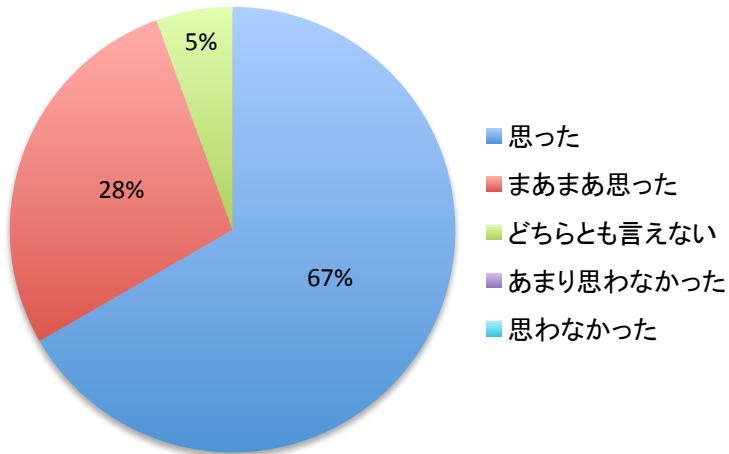
よく理解できた	12
理解できた	6
どちらとも言えない	0
あまり理解できなかった	0
理解できなかった	0

Q2：海に囲まれた日本の環境を学ぶことはできましたか？



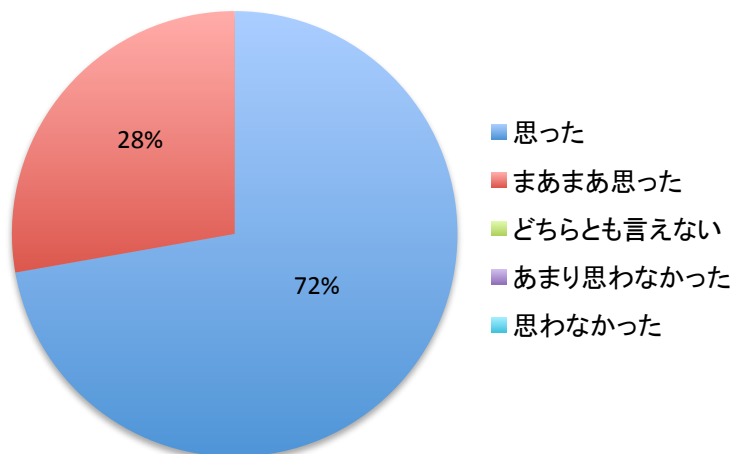
しっかりと学ぶことができた	9
学ぶことができた	8
どちらとも言えない	1
あまりできなかった	0
できなかった	0

Q3：自分が住む地域のことについて、もっと知りたいと思いましたか？



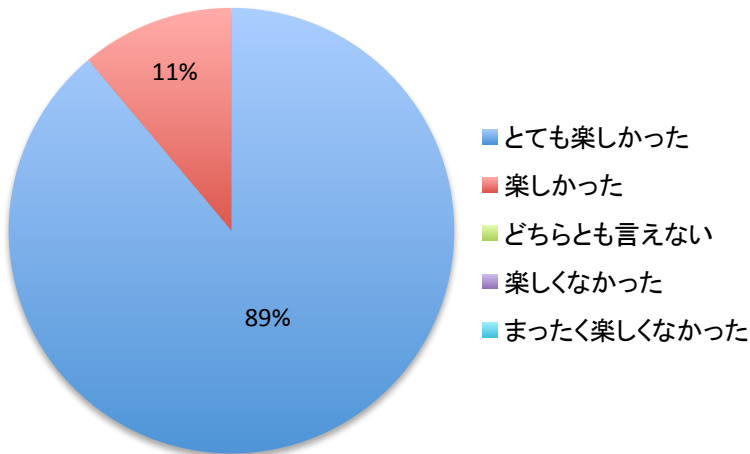
思った	12
まあまあ思った	5
どちらとも言えない	1
あまり思わなかった	0
思わなかった	0

Q4：他の人が住む地域のことについて、もっと知りたいと思いましたか？



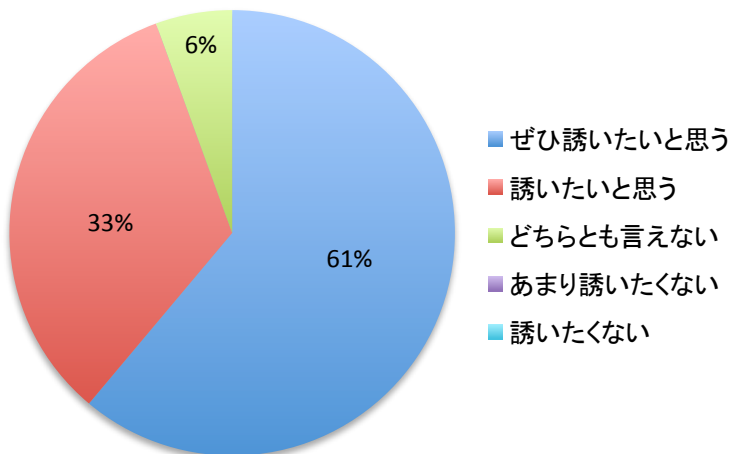
思った	13
まあまあ思った	5
どちらとも言えない	0
あまり思わなかった	0
思わなかった	0

Q5：参加してみて楽しかったですか？



とても楽しかった	16
楽しかった	2
どちらとも言えない	0
楽しくなかった	0
まったく楽しくなかった	0

Q6：他の友達も誘いたいですか？



ぜひ誘いたいと思う	11
誘いたいと思う	6
どちらとも言えない	1
あまり誘いたくない	0
誘いたくない	0

Q7：印象に残った内容を教えてください。

- ・遠く離れた人とテレビ電話で話すことができ、すごいと思った。
- ・遠くの人と話ができ楽しかった。
- ・模造紙に付箋を貼っていく作業が楽しかった。
- ・世界の大きさや日本の大きさを知ることができて楽しかった。
- ・自分が暮らす地域の大きさなどが分かり、楽しかったです。
- ・利尻の人の数や自然などが分かって楽しかった。
- ・日本にはいろいろな生物や自然があるということを知った。
- ・地球の規模・日本の規模を知り、自分たちの地域の特徴を考えることができた。

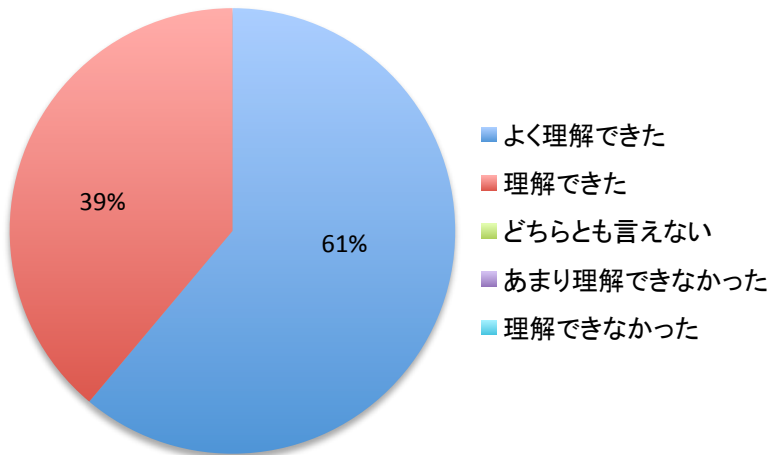
Q8：学習Iの感想を教えてください。

- ・自分が住んでいるところを、いろいろ知ることができた。
- ・緊張することなく話すことができたのでよかったです。
- ・海が思っていたよりも広がったことにビックリした。
- ・地球の面積や日本の市区町村の数など、知らなかったことばかりで面白かった。
- ・最初はとても緊張したけれど、自分の暮らす地域には良いところがたくさんあるなあと思いました。そして、もっと地域をしることが大切だと感じました。



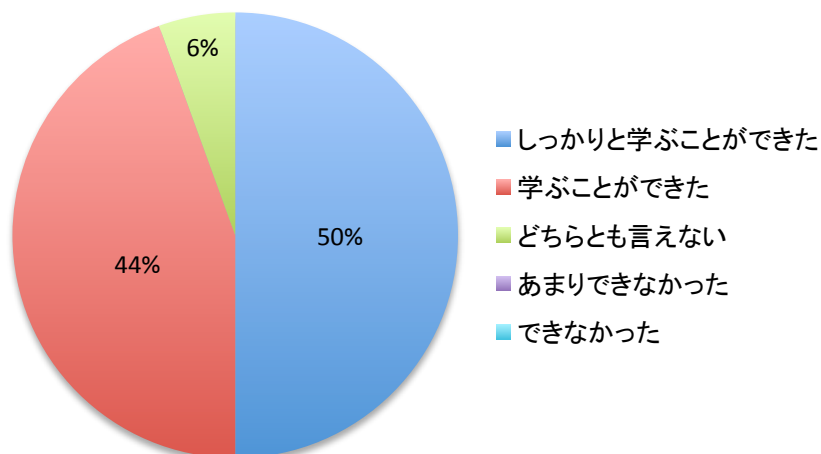
学習2アンケート

Q1：学習2について、内容は理解できましたか？



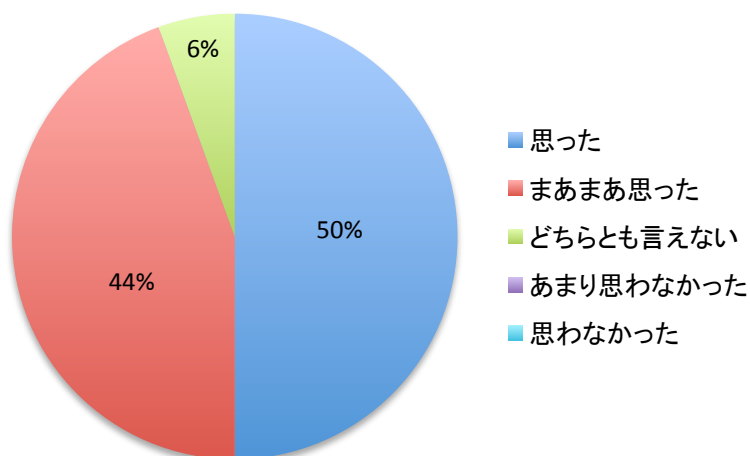
よく理解できた	11
理解できた	7
どちらとも言えない	0
あまり理解できなかった	0
理解できなかった	0

Q2：メディアの種類やその役割を学ぶことはできましたか？



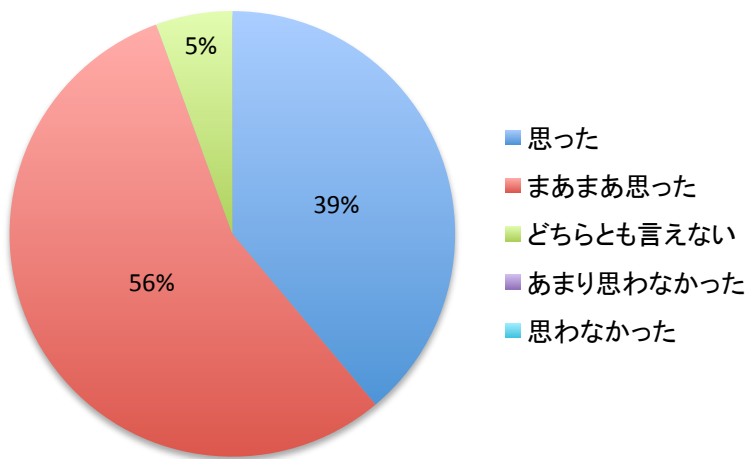
しっかりと学ぶことができた	9
学ぶことができた	8
どちらとも言えない	1
あまりできなかった	0
できなかった	0

Q3：自分の身の回りにあるメディアを、もっと知ってみたいと思いましたか？



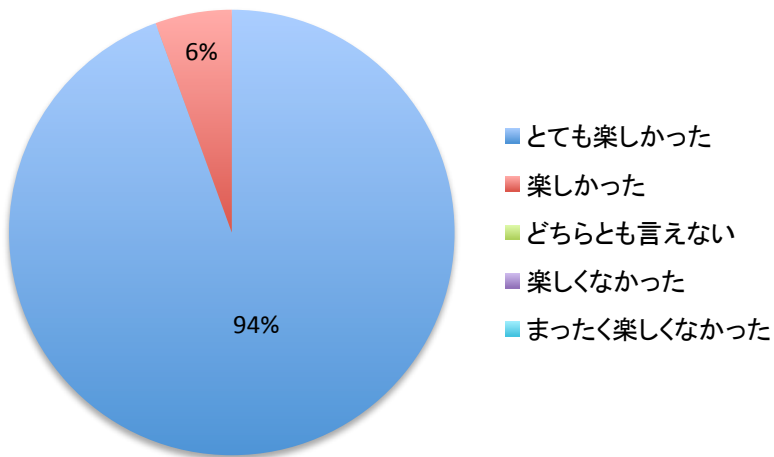
思った	9
まあまあ思った	8
どちらとも言えない	1
あまり思わなかった	0
思わなかった	0

Q4：他の人が住む地域にはどんなメディアがあるか、知ってみたいと思いましたか？



思った	7
まあまあ思った	10
どちらとも言えない	1
あまり思わなかった	0
思わなかった	0

Q5：学習2を学んでみて楽しかったですか？



とても楽しかった	17
楽しかった	1
どちらとも言えない	0
楽しくなかった	0
まったく楽しくなかった	0

Q6：印象に残った内容を教えてください。

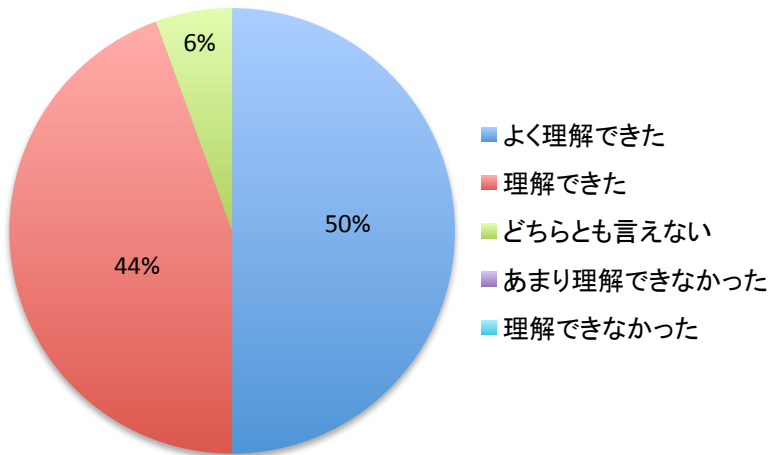
- ・身の回りのメディアについて考える作業が楽しかった。
- ・いろいろな新聞があることを知って、ビックリした。
- ・編集の仕方についてがとても面白かった。
- ・いろいろな新聞を見比べたりして、その新聞が伝えたい内容が分かった。
- ・どんな人に読んでもらいたいか考えることが印象に残った。
- ・メディアについて、はじめてちゃんと教えてもらった。
- ・グループでの話し合いが面白かった。
- ・メディアや編集を学んだことが、とても印象に残った。

Q7：学習2の感想を教えてください。

- ・今までメディアとか知らなかったけれど、ちゃんと知ることができてよかった
- ・いろんなメディアをもっとたくさん知りたいと思った。
- ・難しかったけれど、とても楽しかった。
- ・「メディア」を日本語で「媒体」ということが分かり、とても勉強になった。
- ・自分の身の回りには、いろんなメディアがあることが分かった。

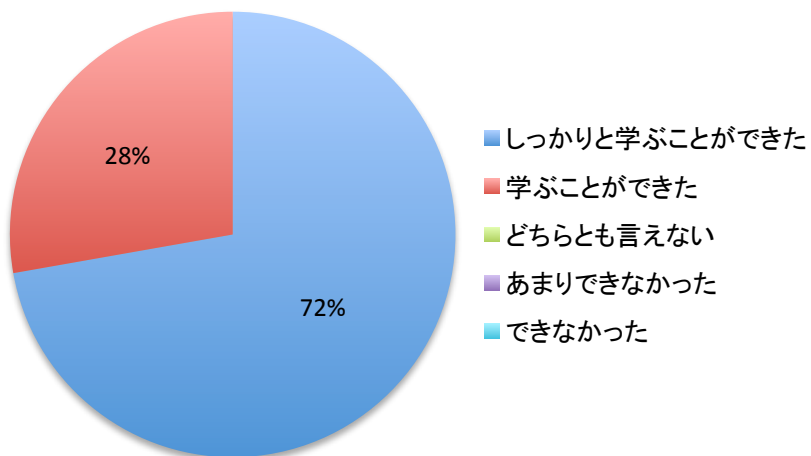
学習3アンケート

Q1：学習3について、内容は理解できましたか？



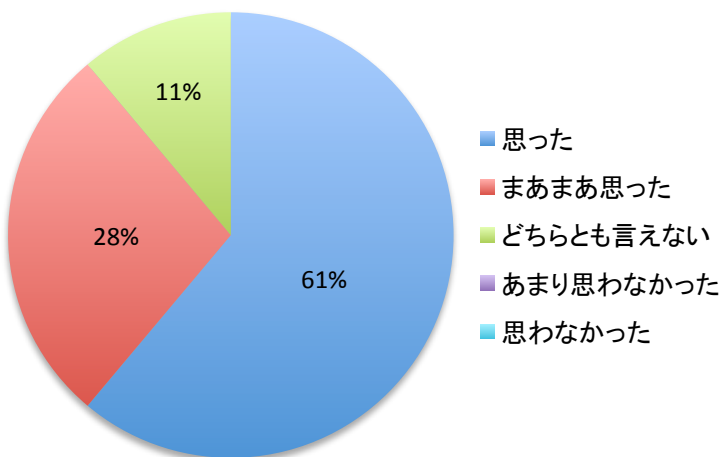
よく理解できた	9
理解できた	8
どちらとも言えない	1
あまり理解できなかった	0
理解できなかった	0

Q2：コミュニケーションの大切さを学ぶことはできましたか？



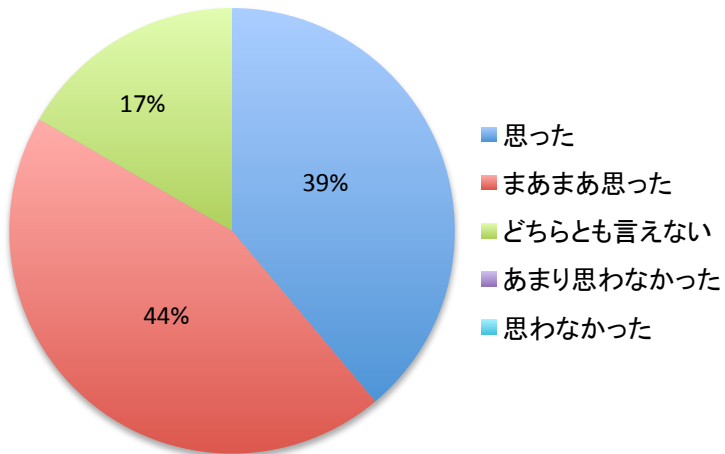
しっかりと学ぶことができた	13
学ぶことができた	5
どちらとも言えない	0
あまりできなかった	0
できなかった	0

Q3：自分の身の回りにいる人たちと、もっと積極的にコミュニケーションを取ってみたいと思いましたか？



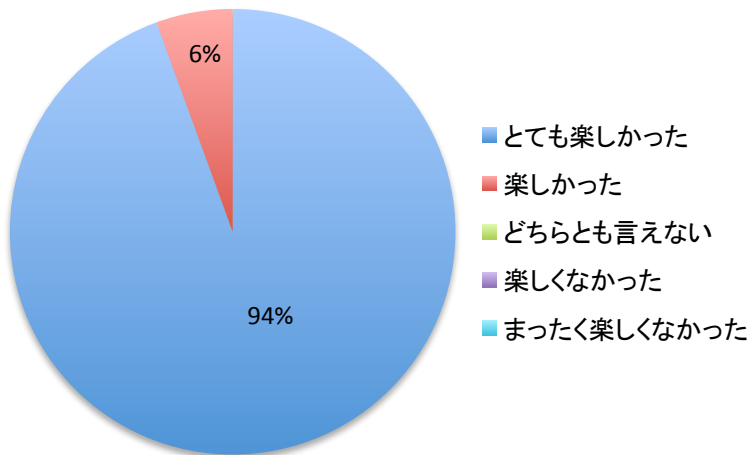
思った	11
まあまあ思った	5
どちらとも言えない	2
あまり思わなかった	0
思わなかった	0

Q4：他の地域にいる人たちと、もっと積極的にコミュニケーションを取ってみたいと思いましたか？



思った	7
まあまあ思った	8
どちらとも言えない	3
あまり思わなかった	0
思わなかった	0

Q5：学習3を学んでみて楽しかったですか？



とても楽しかった	17
楽しかった	1
どちらとも言えない	0
楽しくなかった	0
まったく楽しくなかった	0

Q6：印象に残った内容を教えてください。

- ・新聞づくりの仕方に驚きました。
- ・テレビ電話会議が面白かった。
- ・テレビ電話会議をしたことがとても印象に残っています。
- ・コミュニケーションの方法がたくさんあってビックリした。
- ・会議の仕方について、楽しかった。
- ・奄美大島にいるのに、テレビ会議で話ができるのはすごいと思った。
- ・コミュニケーションを取る方法が面白かった。

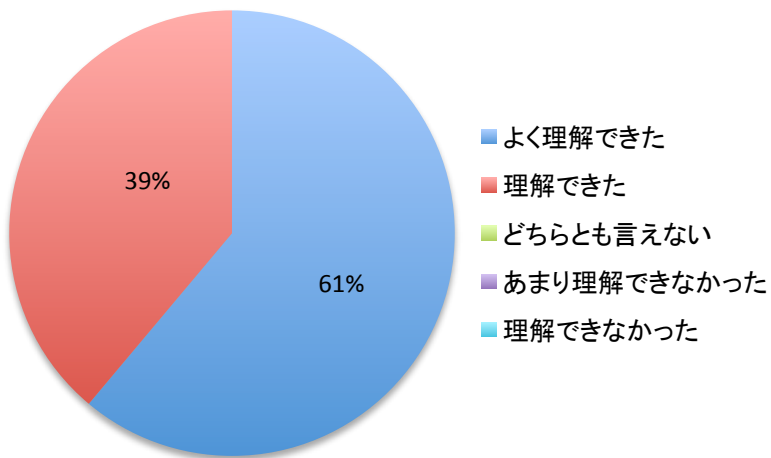
Q7：学習3の感想を教えてください。

- ・編集の「編」の字の意味にビックリした。
- ・もっといろんなことを知りたいと思った。
- ・みんなで一つのことを行うためにする会議の大切さがわかった。
- ・知らないことをたくさん学ぶことができた。
- ・「人と人がつながり合う＝コミュニケーション」なのだと分かった。

② 第2回プログラム（学習4～6）

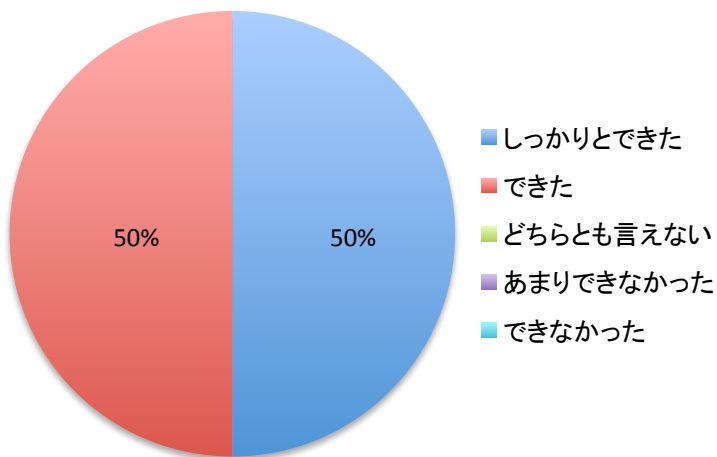
学習4～6アンケート

Q1：学習4～6について、内容は理解できましたか？



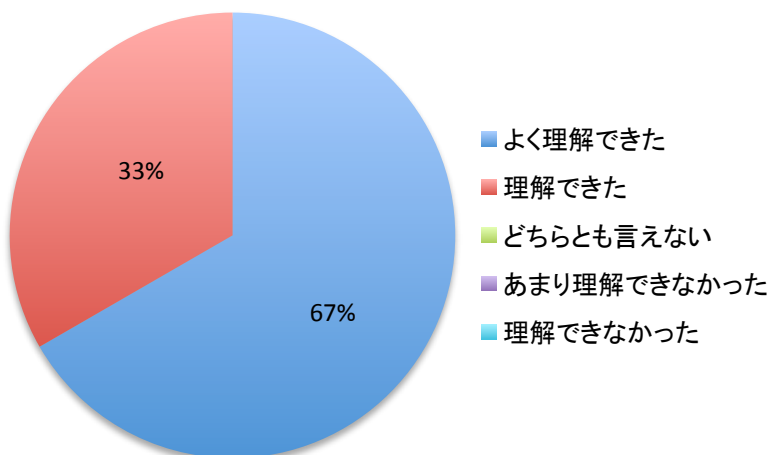
よく理解できた	11
理解できた	7
どちらとも言えない	0
あまり理解できなかった	0
理解できなかった	0

Q2：「一番目立たせたい記事」「新聞で伝えるべきこと」などは、しっかりと考えられましたか？



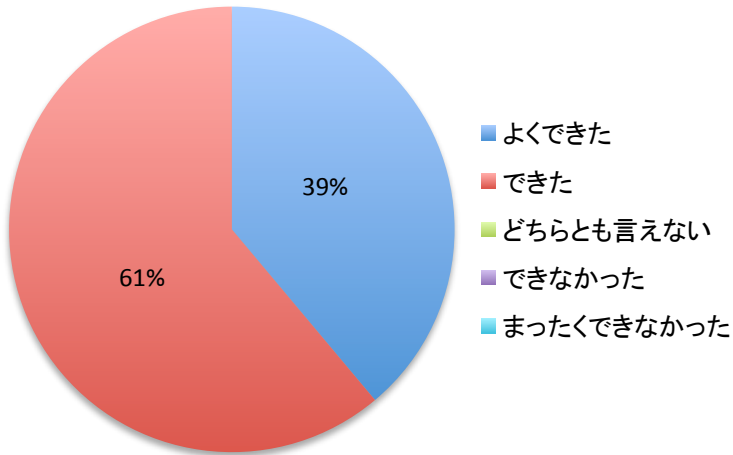
しっかりとできた	9
できた	9
どちらとも言えない	0
あまりできなかった	0
できなかった	0

Q3：取材のお願いの仕方は理解できましたか？



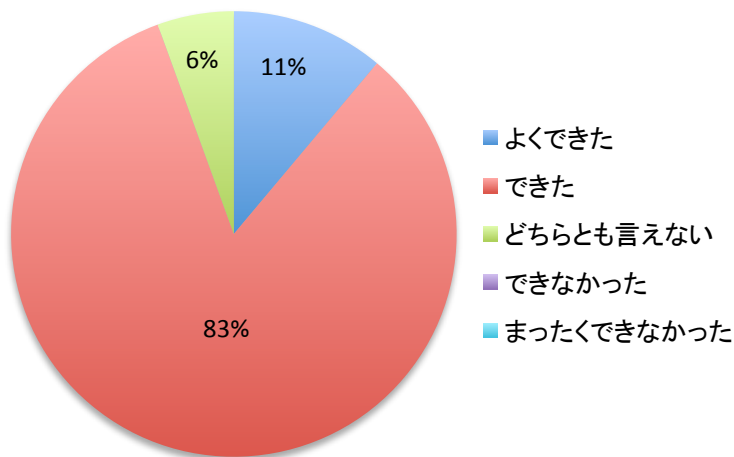
よく理解できた	12
理解できた	6
どちらとも言えない	0
あまり理解できなかった	0
理解できなかった	0

Q4：事前に考えた「取材で聞きたい質問」はしっかりと聞くことができましたか？



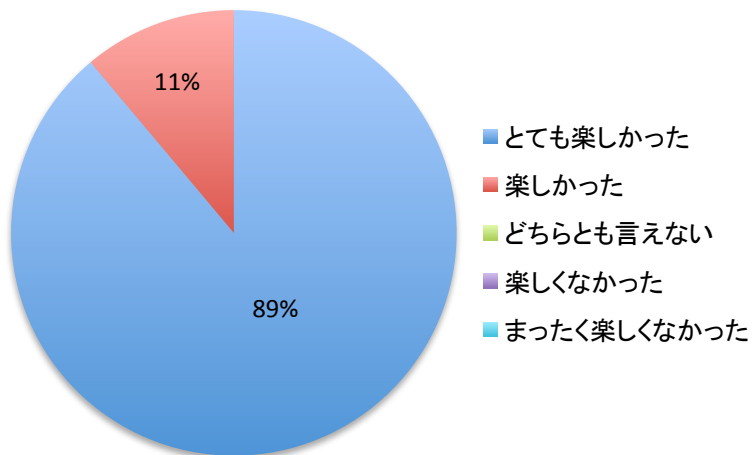
よくできた	7
できた	11
どちらとも言えない	0
できなかった	0
まったくできなかった	0

Q5：取材メモ、写真撮影はしっかりとできましたか？



よくできた	2
できた	15
どちらとも言えない	1
できなかった	0
まったくできなかった	0

Q6：取材は楽しかったですか？



とても楽しかった	16
楽しかった	2
どちらとも言えない	0
楽しくなかった	0
まったく楽しくなかった	0

Q7：印象に残った内容を教えてください。

- ・学習6の写真の撮り方が面白かった。
- ・取材で「ゆず」や「しいたけ」の話がたくさん聞けた。
- ・普段食べている「ゆず」や「しいたけ」なのに、知らないことがたくさんあった。
- ・考えていた質問をしっかりと聞くことができた。
- ・取材をするのに、いろんな準備が必要なことを知った。
- ・新聞づくりで、何を目立たせたいのか、考えるのが難しかった。

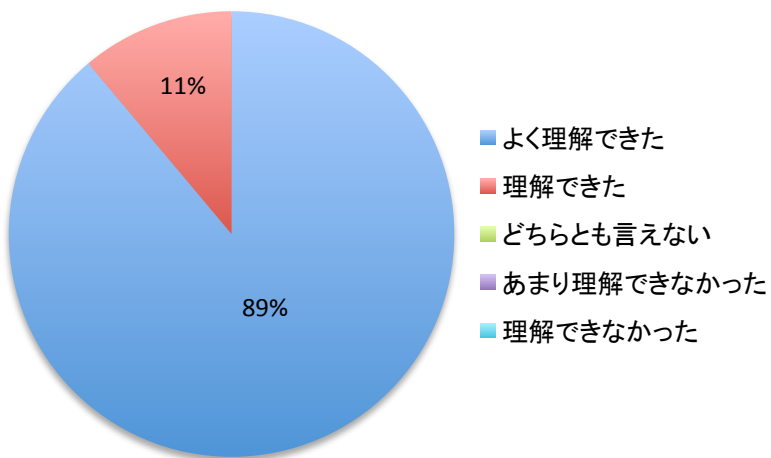
Q8：学習4～6の感想を教えてください。

- ・とても楽しく学習できたと思う。
- ・インタビューを初めてしたので、とても緊張しました。
- ・取材では専門的な言葉がたくさんあったけど、とても勉強になりました。
- ・緊張したけれど、事前に考えていた質問をほとんど聞けたのでよかったです。
- ・写真の撮り方が難しかったけれど、しっかりと撮れたと思う。

### ③ 第3回プログラム（学習7・8）

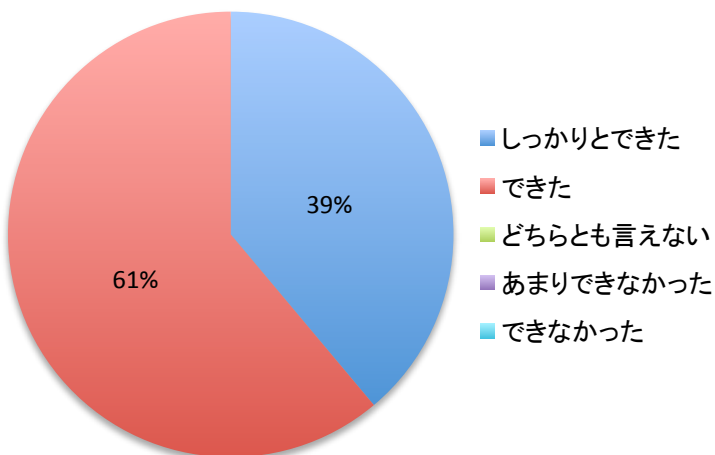
#### 学習7・8アンケート

Q1：学習7・8について、内容は理解できましたか？



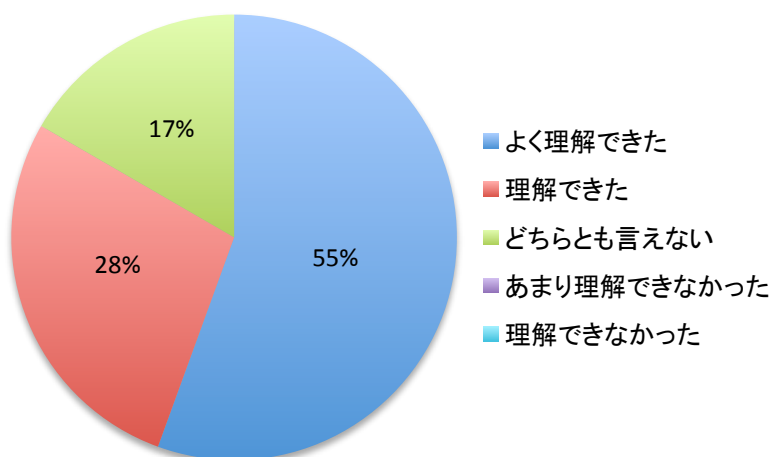
よく理解できた	16
理解できた	2
どちらとも言えない	0
あまり理解できなかった	0
理解できなかった	0

Q2：「原稿の文字数」「写真・イラストの数」などは、しっかりと決められましたか？



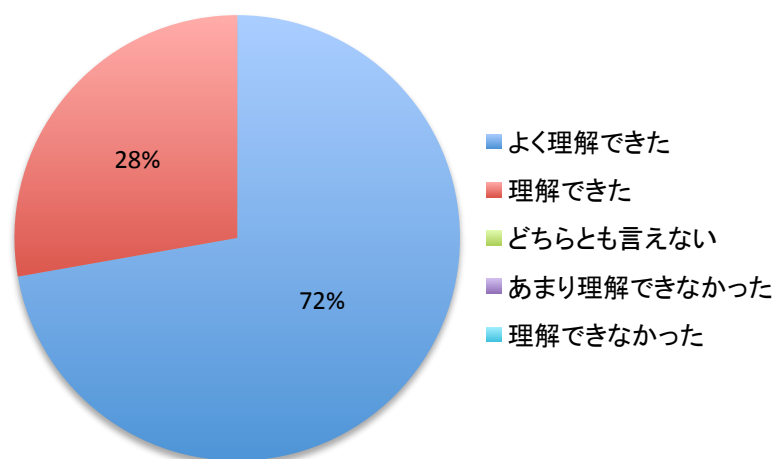
しっかりとできた	7
できた	11
どちらとも言えない	0
あまりできなかった	0
できなかった	0

Q3：これまでの学習をふくめて「原稿の書き方」は、しっかりと理解できましたか？



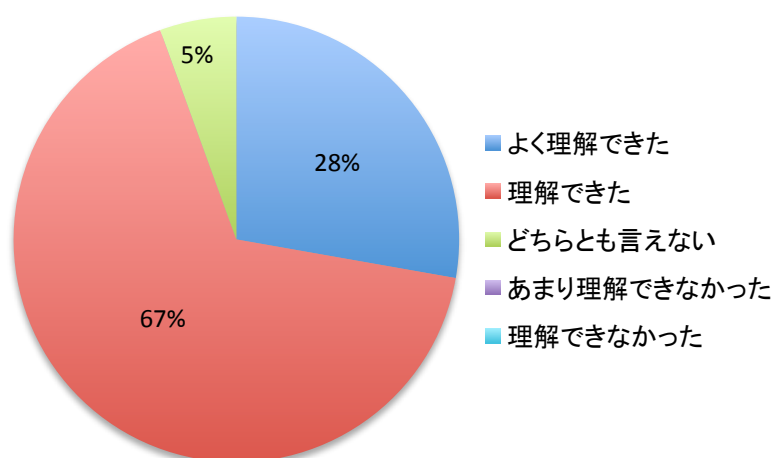
よく理解できた	10
理解できた	5
どちらとも言えない	3
あまり理解できなかった	0
理解できなかった	0

Q4：「校正」の意味、大切さは理解できましたか？



よく理解できた	13
理解できた	5
どちらとも言えない	0
あまり理解できなかった	0
理解できなかった	0

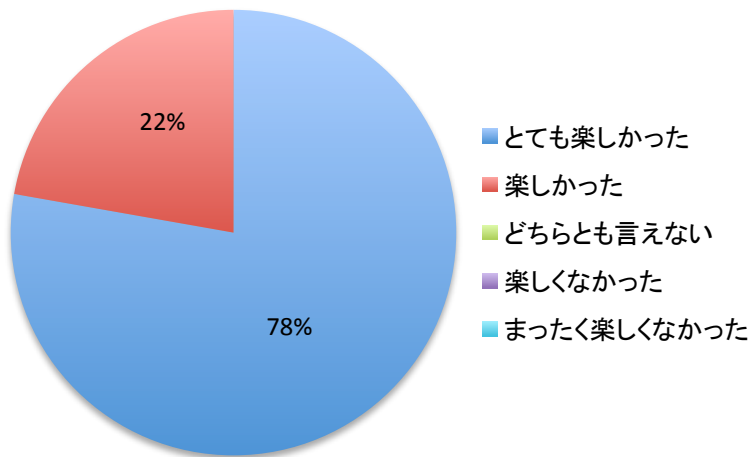
Q5：「校正」でチェックするポイントは、しっかりと理解できましたか？



よく理解できた	5
理解できた	12
どちらとも言えない	1
あまり理解できなかった	0
理解できなかった	0



Q6：学習7・8を学んでみて楽しかったですか？



とても楽しかった	14
楽しかった	4
どちらとも言えない	0
楽しくなかった	0
まったく楽しくなかった	0

Q7：印象に残った内容を教えてください。

- ・5W1Hを教えてもらって、作文が少し好きになった。
- ・原稿は大変だったけれど、がんばった。
- ・校正が大変で、何度も書き直したことが大変だった。
- ・取材したことを思い出しながら、原稿を書く作業が楽しかった。
- ・ちゃんと文章で伝えるのは難しいと思った。
- ・5W1Hや校正など、知らないことを教えてもらって、とても勉強になった。

Q8：学習7・8の感想を教えてください。

- ・最後は大変だったけど、何とか原稿を書き終わることができてホッとした。
- ・イラストを書く作業はとても楽しかった。
- ・何度も書き直したけれど、自分が住んでいるところの海や山など、取材で聞いたことをしっかり書くことができたと思う。
- ・なかなかうまく書けずに不安だったけど、しっかりと書くことができた。
- ・決められたスペースで、たくさんのことを伝えるのはとても難しいことだと思った。

(2) うみやまかわ新聞制作後の編集後記用ヒアリング結果

全素材が揃った段階で、事業を通じてのまとめとして、うみやまかわ新聞に掲載する編集後記用アンケートを実施。下記の内容を参加生徒より抽出した。

① 北海道利尻島

- ・この新聞を通じて、利尻の自然について深く考えることができました。
- ・うみやまかわ新聞を読んだ人が、利尻に来てみたいと思って欲しいです。
- ・みんなの意見をまとめるのは大変だったけれど、とても楽しかったです。
- ・新聞作りを通じて、利尻島は本当に自然が豊かだと思いました。

② 東京都檜原村

- ・この新聞で、檜原村っていいところだな～と感じてもらいたいです。
- ・テレビ電話会議で遠く離れた人と話すことがおもしろかったです。
- ・記事を書くのがとても難しかったけれど、みんなで取り組めてよかったです。
- ・取材や授業がとても楽しかった。新聞を作る作業は大変なのだと感じました。
- ・村長へのインタビューは緊張したけれど、檜原村について話を聞いて楽しかった。
- ・檜原村の林業や宮大工の仕事について、話が聞いてよかったです。
- ・地図を担当して、檜原村のうみやまかわに関係するスポットなどを知ることができてよかったです。

③ 愛媛県上島町

- ・学校の新聞作りとはちがう部分がたくさんあって、新聞作りはとても大変なのだと思います。でも、いろいろな人に取材をして、たくさんのことを学びました。EM団子の取材では、EMや水の大切さがよく分かりました。この新聞を読んだ人が、上島町やここで働くことなどに興味を持ってくれたらうれしいです。
- ・取材でお話をうかがったり、テレビ電話でみんなとお話するのが楽しかったです。新聞作りを通じて、自分が暮らす上島町には、ここにあるうみやまを大切に、自然を守っている人、産業を支えている人がいるということを実感しました。また、その人たちへの感謝を、これからも忘れないようにしたいです。

④ 大分県中津江村

- ・このプロジェクトを通じて、日本の水のつながり、中津江村の人々の温かさを知ることができ、私自身も成長できたと思います。いろいろな取材をして、自分が住んでいる村のことを深く考え、これまで以上に中津江村が好きになりました。
- ・原稿を書くことが思った以上に難しくびっくりしましたが、自分なりにがんばれたと思います。この新聞作りを通じて、これまで知らなかった中津江村のことを学ぶことができ、とても楽しかったです。

⑤ 沖縄県与那国島

- ・田原川や祭りのことは、普段から知っていたけれど、歴史とかは全然知りませんでした。うみやまかわ新聞を通じて、自分が知らないことを学べてよかったです。
- ・最初は不安もありましたが進めていくうちにとっても楽しくなりました。自分の地域には、海や山や川があって、いろいろな生き物がいることなどを学びました。

### (3) 地域コーディネーターへのヒアリング結果

各地域にて生徒たちを受け入れ、スケジュール調整などを行った地域コーディネーターにアンケートを実施。プログラム内容や事業への評価をヒアリングした。

#### ① 北海道利尻島

- ・利尻島は参加した子どもたちの年齢が小学校2年生～6年生までと幅広かったため、高学年は内容を理解していましたが、低学年には難しい内容だったかもしれません。ただ、海に囲まれ、利尻山という山がある島の特性・特徴を小学生の段階で知るとは、とても意義のあることだと思います。また、ICTを活用したテレビ電話会議での会話をみんなが楽しんでいたのが非常に印象的でした。
- ・着地点が見えないなかでのスタートだったので、どこまでフォローできるのか、地域コーディネーターとしてはとても不安がありました。それでも、子どもたちが楽しそうに参加し、図書館などを活用して積極的に島のことを調べたりしていたので、非常によかったと思います。

#### ② 東京都檜原村

- ・檜原村の子どもたちは、地域の歴史や文化財などにはとても詳しいが、それをちゃんと地域外の人へ説明したことがないため、今回のプログラムはとてもよかったと思う。また、同じ地域に住んでいる大人でも、普段どんな仕事をしているのか、このプログラムを通じて知った子どももいたので、地域内の交流促進という面でも内容のある取り組みでした。

#### ③ 愛媛県上島町

- ・課題などがあり、当初の予定よりも子どもたちの拘束時間が長くなり、子どもたちにとって若干の負担があったと思います。ただ、この新聞作りを通じて上島町の2名の子どもたちはとても仲良くなり、発表会で会った他地域の子どもたちともお友達になれました。もともと積極的にコミュニケーションを取るタイプではなかったのですが、今回のプログラムのような共通点や共有体験が子どもたちには大切なのだと思いました。

#### ④ 大分県中津江村

- ・子どもたちにとっては非常に貴重な体験だったと思います。全体の日程的に学校終了後の放課後を活用しての実施だったため、学校の宿題・部活動・習い事などの合間を縫っての作業となり、2人にはとてもハードだったかと思いますが、自分の暮らしている地域の魅力を掘り起こそうとがんばってくれました。とても充実した内容だったと思います。次年度も同様のプログラムを実施するのであれば、ぜひ参加させていただきたいと思います。

#### ⑤ 沖縄県与那国島

- ・今回は大変貴重な機会をいただきました。プログラムを通じて、2人もたくさん感じる事があったようで、発表会後の飛行機では自分たちの地域のことや、他地域のことなど、楽しそうに話していました。このプログラムに参加する子どもの輪をもっと広げていけるように、今後もお手伝いさせていただきたいと思います！

## 7. 事業総括

取り組み初年度ということで、親和性の高い地域を選定し、放課後の課外活動として事業を実施。前述の5地域（北海道利尻島・東京都檜原村・愛媛県上島町・大分県中津江村・沖縄県与那国島）を対象とし、地域活動に積極的に取り組んでいる人材を地域コーディネーターとして登用した。参加生徒は各地域の地域コーディネーターにより募集し、任意で参加生徒を募った。小学校5・6年生を主な対象としたが、各地域の状況によって、一部対象年齢以外の生徒も参加。参加生徒たちの事業への感想・評価については、前項のアンケートにもあるように、概ね好評を得ることができ、地域コーディネーターからのヒアリングでも、事業を通じた気づきや成長が見られた。地域コーディネーターを含めた、地域の大人たちからの事業内容への評価も高く、事業そのものの理解・認知については、2014年度の活動によって、一定の効果が得られた。また、本事業の一番の目的でもある海洋教育促進についても、その意義の訴求・認知拡大の土台を作ることができたと感じている。

一方で、課外活動故の子どもたちへのスケジュール的負担に対する懸念もあり、各地域からは学校の授業として導入してもらった方がいいのではという声も聞かれた。ただし、これについては、本事業のもともとの目標でもある学校教育への導入に合致するので、こういった地域からの声を反映しつつ、すでに継続実施が確定した2015年度事業へと活かしていきたい。

2014年度の成果物（「うみやまかわ新聞 全国版・地域版」・WEBサイト「うみやまかわ新聞」など）が完成したことで、本事業への注目度も飛躍的に向上し、複数の学校・地域から問い合わせもあった。

上記のような背景もあり、また、2015年度事業の継続確定を受け、すでに2015年度事業の学校教育導入へ向けて、提案を開始。2015年3月31日現在で、下記10校から導入内諾をいただくとともに、3校が検討中となっている。

### ◆2015年度 総合学習への導入内諾校

- ・東京都江戸川区二之江第三小学校
- ・千葉県富津市立金谷小学校
- ・千葉県いすみ市立太東小学校
- ・山梨県北杜市立高根西小学校
- ・兵庫県姫路市立家島小学校
- ・愛媛県上島町立弓削小学校
- ・高知県佐川町立尾川小学校
- ・大分県日田市立津江小中学校
- ・長崎県津島市立豊小学校
- ・沖縄県うるま市立津堅小中学校

いずれの学校からも2014年度の実績を高く評価していただいております、この結果からも、2014年度の本事業において、一定の効果が得られたものと考えられる。